

質問コーナー「教えて！宮里先生！！」におけるQ&A

Q 1 ダウン症の年少児で、幼稚園や児童発達支援では、自分でトイレや食事等できますが、家では自分でやろうとしません。家でできなくても外ではできているので、様子を見ていけばいいのでしょうか。

A 1 いつ頃からそのような様子が見られるのでしょうか。また、食事であればどのようなメニューの時かなど、状況もいろいろなのではと思います。ご質問内容を読む限りで考えられることは、幼稚園や児童発達支援では周りの子の刺激を受けて、自分でやってみようとする気持ちが高まっているのかもしれませんが。外で頑張った分、家に帰ると全部やってほしがるということはよくあることです。まずは、受け止めることが大事だと思います。

「手伝って」と意思を表すことができているのは大事なことです。この状況が続き、ますます何もしなくなってきた時は、幼稚園や児童発達支援の方に相談してみることをお勧めしますが、とりあえず今は、「一緒にやろうか」などの声をかけながら、まずはやってあげて、何かを自分でやろうとしたら大いに認めてあげたいと思います。また、家の中でできるお手伝いのようなこと、例えば、ご飯の時に茶碗を運んでもらったり、お箸を並べたりなど、やってみたがることがあったらやってもらい、できたら「ありがとう！」と言ってみるなどはいかがでしょうか。甘えたい時はその気持ちを満足させてあげながら、ほめたり認めたりする場面を作ってあげられたらいいですね。

Q 2 子供が「ママ！ママ！」とずっと遊んで欲しがります。家事等で応えてあげられなかったり、遊んでいても切り上げて外出に付き合ってもらわないといけない時などがありますが、泣いて我慢をさせてしまい、いつも気が咎めます。どの程度合わせてあげて、どのように切り替えたらいでしょうか。

A 2 子供の気持ちというのは、大人が期待するようには切り替わってくれませんよね。子供にどんなに細心の注意を払い幸せを願っても、どうしてもない時もあります。子育てはそう簡単なものではありません。とてもいいお母さんをされているのだと思います。泣く子をずっと抱いていても自分が疲れてしまいますし、気を咎めなくても大丈夫です。どうぞ笑っていてください。

Q 3 「いないいないばあ」などを繰り返しせがまれるのですが、飽きるまで繰り返した方がいいのでしょうか。どの程度付き合ってあげたらいいのでしょうか。

A 3 「もう一回、もう一回」と永遠に続くような気がしてきますが、可能な限りやってあげた方がお互い気持ちがいいものです。「いないいないばあ」だけでなくこれからも同じようなループが来るかもしれません。どうぞ、無理のない程度に付き合ってください。お子さんは、嬉しいと思います。

Q 4 2、3歳の年子が、毎日のように兄妹げんかをするため、ストレスを感じています。どのように関わるのがいいのでしょうか。

A 4 どの程度の兄弟げんかにもよりますが、どちらかをいつも優先するのではなく、例えば、「二人とも大事なんだけど、こうなっちゃうから本当に困っちゃうよね。」というような感じで、向き合ったりやり過ぎたりしてはどうかと思います。

この時期はどうしても物の取り合いなどが起こることがありますので、大人が子育てを交替しながら気分転換するなど、親の側がストレスを溜めない方法を考えられたらと思います。

Q 5 子供の「なぜ？どうして？」とずっと続く質問には、いつまで答え続けるべきですか。どのような遊びが子供の育ちをよりよくするのか、おすすめの遊びは何ですか。

A 5 「なぜ？どうして？」という問いに対して、「それはこうだよ。」「本にこう書いてあったよ。」と応える場合もありますが、一緒に考える、という時間になるといいですね。例えば、自然に関することであれば、「なぜだろうね。明日見に行ってみようか。」などと返してみると、謎をめぐって面白いことが起こってきます。

「なぜ？どうして？」という言葉は、学びの入口です。親が答えを言ってしまうと、試行錯誤しながらそのわけを探すという一番面白いところを奪ってしまう可能性がありますので、ぜひそのような関わり方ができたらいいと思います。

Q 6 宮里先生が考えられている豊かな体験とは何か、実践された保育環境を教えてください。

A 6 過去に自然豊かな公園を活用した幼稚園で勤務していたことがありますが、自然というのはわずか一週間でも変化が見られ、一ヶ月もあれば一気に様子が変わり、たくさんの発見が見られます。やはり、豊かな自然環境など身近な環境を生かすのは大事なことだと思います。

Q 7 幼保小連携・接続の取組として、園所の先生と小学校の先生方が連携していくためのコツや全教職員の意識改革を図っていくための方法等や多様性社会における一人一人に合った保育実践、教師における支援や環境構成等の具体的な実践例、または、子育てや幼保小連携・接続に関する参考資料やDVD等なお薦めがありましたら教えてください。

A 7 これは文部科学省ホームページの動画等やこども家庭庁、厚生労働省のホームページなどが参考になると思いますし、私自身も園での外国人幼児などの受入れをどのように支援するかという提案にも関わってきました。インターネットで公開されている情報をどうぞ活用してください。

Q 8 子供の持っている力をできるだけ伸ばしてあげたい、できるだけそのような環境を整えてあげたいと思う中で、例えば、排水溝に石を落としているとそんなところで遊ばせるのはどうだろうか、というような人たちとの葛藤が起こることもあるかと思いますが、保育者や保護者はそのような異なる見方をどのように捉え関わるかが考えられるかを教えてください。

A 8 まず大人が道徳観、規範意識としてどうだろうということを意識する必要があります。社会的に皆が困ること、人としてやってはいけないことをしようとしたときに、「これはこういう理由でやめようね。」「ここではいいね。」「こうすればやってもいいね。」というように、やりたい気持ちを受けとめられるという経験を重ねた子供は、その判断ができるようになっていきます。これらを伝えることも私たち大人の責任であると思います。

Q 9 異年齢の中での学びの必要性について、宮里先生のお考えを教えてください。

A 9 認定こども園に、卒園生や兄弟の小学生が、ボランティアとして来てくれることがあります。双方にとってとてもいい経験や学びの機会になっています。コロナ禍を乗り越えて、子供たちにとって実際に出会い関わることはとても大切なことだと思います。

Q10 初対面の子供への自己紹介をする時、子供がなつくためのポイントがあれば教えてください。

A10 例えば、少し変わったペンダントなどを着けていたら、自己紹介が終わった後に、「それは何？」と子供たちが寄ってきて会話が始まったりします。こちらがにこにこしていると「怖い人じゃないな」と感じて近づいてきてくれることもあります。近づいてきたら応答するのがコツかなと思います。